

# 棚田に広がる笑顔



発行所  
山陽新聞社

われた。後継者不足で荒廃が進む棚田の再生を目指す地元住民らを後押しする狙いで、開く傘と一緒に住民たちにも笑顔が広がった。

(難波孝光)

美作・上山

棚田に咲いた満面の笑み。美作市上山の棚田で7日、世界の子どもたちの笑顔をプリントした60本の傘を一斉に開くイベント「メリー・アンブレラ・プロジェクト」が行

## 傘60本 世界の子どももプリント



子どもたちの笑顔が印刷された傘が並べられた棚田

## アート イベント 再生目指す住民支援

一帯の棚田は「上山の千枚田」と呼ばれ、文化庁の「文化的景観の重要地域」に選ばれている。しかし、近年は荒廃が問題となり、住民が約40畝のうち5畝の再生を目指して2009年冬から再生の取り組みを開始。休耕田を耕して稲やソバを栽培し、昨年12月には初めての収穫祭を開いた。

同プロジェクトは東京のアートディレクター水谷孝次さん(59)と、大阪市から移住して棚田再生に取り組む西口和雄さん(44)が企画。傘は、水谷さんが神戸市、中国、インドネシアで、地震や津波の被害に遭った子どもに「あなたにとってのmerry(夢、幸せ)は何ですか」と尋ね、答える子どもの笑顔を撮影し印刷した。

この日は地元住民60人が協力。1本ずつ傘を持って棚田に並び、水谷さんの「1、2、3、メリー」の掛け声に合わせて一斉に傘を開き、歓声を上げた。

「子どもの笑顔は希望の象徴。棚田復活につながるはず」と水谷さん。西口さんは「一刻も早く、昔の美しい棚田の風景を取り戻したい」と話した。

8日には香川県小豆島町の棚田でも同様のイベントが行われる。